第36回日本急性血液浄化学会学術集会
ランチョンセミナー2（LS2）

Vantive

CAH-CHDFの有効性を考慮した運用マネジメントを考える

2025年 9月20日（土）
12:20-13:10

第2会場
ソラシティカンファレンスセンター2F Sola city Hall East

司会

森口 武史先生 山梨大学医学部 救急集中治療医学講座
篠崎 広一郎先生 近畿大学医学部 救急医学教室

演者

平野 玲二先生 一般財団法人 住友病院 臨床工学科
Prismaflexの特性とデータ連携を活かした運用マネジメント

近藤 乾伍先生 千葉大学医学部附属病院 救急科集中治療部
敗血症に対する血液浄化療法と今後の展望

ホームページ
https://www.credoinc.jp/jsbpcc36/index.html

本ランチョンセミナーに参加を希望される場合は、学術集会ホームページから参加登録を行ったうえで、セミナーの事前予約をお願いします。
当日の状況により事前予約なしでご参加いただける場合もございますが、座席とお弁当の数には限りがございます。ご理解とご協力をお願いいたします。

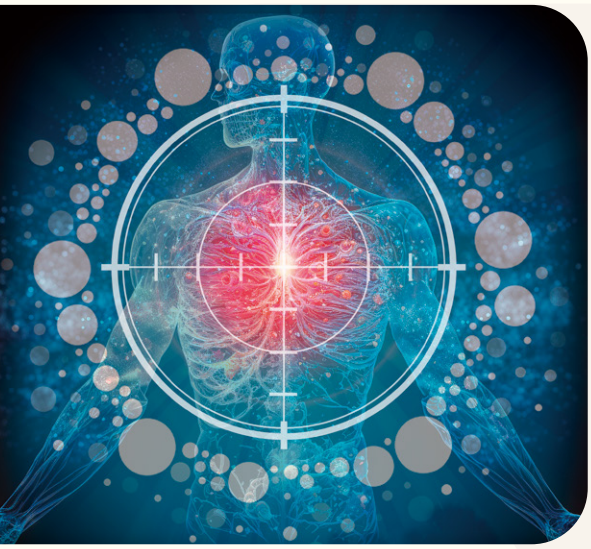
共催：第36回日本急性血液浄化学会学術集会 / 株式会社ヴァンティブ

問い合わせ先：株式会社ヴァンティブ　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目４番１号　TEL：03-4595-4750

JP-AT1-250056 V1.0 08/2025

第36回日本急性血液浄化学会学術集会
ランチョンセミナー2（LS2）

Vantive



CAH-CHDFの有効性を考慮した運用マネジメントを考える

Prismaflexの特性とデータ連携を活かした運用マネジメント

演者
平野 玲二先生
一般財団法人 住友病院 臨床工学科

持続的腎代替療法（CKRT）では、回路内凝固による治療中断や回路内失血が課題となっている。各施設で抗凝固薬の使い方やフィルター選定、回路交換の工夫等がなされている中、本セミナーでは、回路内凝固の発生が少ないとされるヴァンティブ社製Prismaflexの静脈チャンバーの独自構造とアラーム特性に触れつつ、装置データを活用した当院の運用マネジメントについて紹介する。さらに現在進行中の透析管理システムとの連携についても言及し、臨床現場での実用性を重視した内容を共有する。参加者の皆様の現場でのCKRT運用の一助となることを目指し、実践的かつ具体的な講演を行う。

敗血症に対する血液浄化療法と今後の展望

演者
近藤 乾伍先生
千葉大学医学部附属病院 救急科集中治療部

Cytokineは生体の炎症反応を惹起し、様々な重症病態に関与している。敗血症はその代表疾患であり、病原菌による感染症が組織障害を引き起こすだけでなく、cytokineが過剰な生体反応を引き起こすことで重篤な臓器障害を生じる。敗血症は未だに高い致死率を有し、原因である感染症のコントロールを除いてエビデンスが確立された特異的治療は少ない。これまで過剰な生体反応を制御するために、様々な治療が試みられてきた。その中の一つに、cytokineの除去を目的とした血液浄化療法がある。Cytokineを除去するために大量血液濾過やHigh-cut off membraneを用いた透析など様々な議論がなされてきた。しかし転帰は改善されず、抗菌薬や電解質を含む有効成分の除去など有害である側面も垣間見えた。既報からはcytokine modulationとしてCAH(cytokine-absorb-hemofilter)を用いたCHDFが安全かつ有効に施行できる手段であると考える。しかし、これまで大規模なRCTはなく、世界的に高い推奨度には至っていないのが現状である。今回はこれまでの敗血症に対するcytokine modulationを目的とした血液浄化の歴史を振り返り、CAH-CHDFの敗血症診療に対する可能性を論じる。

【販売名】血液浄化装置プリズマフレックス
【一般的名称】多用途血液処理用装置
【承認番号】22400BZX00087000

JP-AT1-250056 V1.0 08/2025